

平成26年度 科学技術人材育成費補助事業

東京海洋大学・岩手大学・北里大学

水産海洋イノベーションコンソーシアム



事業概要(水産海洋イノベーションコンソーシアム)

科学技術研究支援人材育成に向けた3大学連携推進に関する基本合意書

東京海洋大学

岩手大学

北里大学

科学技術研究支援人材育成に向けた3大学連携推進に関する基本合意書

科学技術イノベーションは経済成長の原動力であり、これを担う優れた科学技術人材の育成は我が国の発展の基礎となるため、東京海洋大学産学・地域連携推進機構、岩手大学三陸復興推進機構及び北里大学海洋生命科学部（以下「3大学」という。）は互いに連携し、海外や企業等も含めた多様な場で活躍する高度な水産海洋に関する研究支援

水産海洋イノベーションオフィサ (IOF) とは、

環境・資源の保全から流通消費まで網羅する

水産海洋分野に特化した知識を備えた

研究支援を行う URA* (リサーチ・アドミニストレータ) の名称です。

全国の水産都市と研究機関とを結びながら研究支援を行い、新たな産業の創出や課題の解決をサポートする人材です。

*URA (University Research Administrator)

URAは、大学等において、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を受ける業務に従事する人材です（文部科学省公募要領より一部抜粋）。

水産海洋 IOF

URAの標準スキル

全国の水産業の成長産業化を支える
“高度な実践的研究支援人材”

水産海洋イノベーションオフィサ (IOF)

スキルアップ

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構

岩手大学三陸水産研究センター

北里大学三陸臨海教育研究センター

北里大学海洋生命科学部

東京海洋大学産学・地域連携推進機構

【協力機関】

AQUIMER(フランス漁業クラスター)、ナミビア大学
岩手県水産技術センター
宮城県水産技術総合センター気仙沼水産試験場
東京東信用金庫、気仙沼信用金庫
三陸沿岸部の民間企業(水産加工業等) 等

人材の流動化を促進

(各機関等での勤務を実施)

合意形成、知的財産の取扱い

外部資金獲得、語学の研修プログラムを実施

水産海洋イノベーションコンソーシアム運営協議会

協議会はプログラムの運営に関する重要事項を審議するとともに、プログラムを統括することをその任務とする。

プログラム推進室

宮城県気仙沼市
東京都墨田区
岩手県盛岡市

水産海洋イノベーションコンソーシアム委員会

委員会はプログラムの審査・評価に関する事項を審議する
高柳 和史
(三洋テクノマリン株式会社 常務執行役員、首席技師長)
垣添 直也
(一般社団法人マリン・エコラベル・ジャパン協議会会長)
Thierry MISSONNIER
(Managing director of AQUIMER)

北里大学海洋生命科学部長

菅野信弘



研究支援人材 5名

岩手大学 山下晋

北里大学 清水恵子(平成31年3月IOF認定)

東京海洋大学

池田吉用(平成31年3月IOF認定)、伊東裕子、設楽愛子

教育プログラム実施における考え方①

本プログラムの体制及び研修プログラムの構築

- 人材の活躍の場を固定化させない仕組みの創生
- 優秀な人材の選抜と育成
- 水産海洋分野に特化した**専門性**（知的財産権に関する知識、研究成果の還元手法等）の向上と**キャリアアップ**プログラムの実施

研究支援人材の出向による配置循環
研修報告書による育成のモニタリング
高度の専門性をもったキャリアの育成

研究支援の専門医よりは地域の医者



□ 地域の水産業の 実情を理解して、地域住民や漁業者などとのコミュニケーション能力、継続的な根気や 説得力・先導力を持つ人材を育成する。

□ 既存のプロジェクトを正確に把握して、研究者に適正に伝えるコーディネート能力を有し、次期プロジェクトを再構築できる能力をもつ人材 を育成する。

□ 水産海洋分野に求められる、連携力、分析力、知的財産権の着眼力、合意形成力、ファンドマネジメント力等のスキルを飛躍的に伸ばすプログラムである。

□ 水産資源開発、増養殖、資源管理、知的財産マネジメントから流通・販売・消費まで 連動して研究支援を行う専門性の高い人材を育成する。

教育プログラム実施における考え方②

教育プログラムの構築と重層構造による整理



キャリアアップ

総合実践演習 (I-IV) : 研究戦略、プレアワード、
ポストアワード、PM/PO補佐、競争的研究資金制度への応募

合意形成 (II) 合意形成グループ演習、合意形成事例演習、実地踏査

合意形成 (I) 市民参加の発展と法制度が示す合意形成、
コンフリクトアセスメント、合意の創出

勤務地変更
出向循環

知的財産 (II) 水産物の製品化と商標、意匠権、不正競争防止、
地理的表示

高度学識

知的財産 (I) 特許公報と探索、知的財産権とは、
特許になるまで、一般的知識

語学研修

基礎学理、一定の資質、広報理念、安全・倫理

研究開発

研修プログラム実績①

第1クール

第1回 知的財産・座学

平成27年7月1日～7月3日(宮城県**気仙沼市**)

講師:協和特許事務所

<水産物の製品化と特許>

水産物に関する特許の活用事例、・特許公報、公開公報の見方、特許検索ツールの紹介

<特許権の一般的知識(その1)>

特許制度(1)特許制度の歴史、特許制度の目的、先願主義と先発明主義、発明とは、発明の種類、

特許要件(拒絶理由・無効理由)

<特許権の一般的知識(その1)>

特許制度(2)特許になるまで、優先権、特殊な出願、審査を早くする、特許権の効力

<特許権の一般的知識(その2)>

実用新案制度、国際出願、外国特許制度、大学特有の制度・注意点、特許をめぐる課題



第2回 合意形成・座学およびフィールドワーク

平成27年8月3日～8月5日

講師:豊田光世(東京工業大学グローバルリーダー教育院)

高田知紀(神戸市立高等専門学校都市工学科)※8月3日

のみ参加

場所:気仙沼推進室

1-1市民参加の発展と合意形成

1-2 法制度が示す合意形成の必要性

1-3 場に応じて変化する合意形成の目的

1-4 合意形成の基本ステップ

1-5 合意形成の場をつくる

1-6 合意形成の失敗とは

事例分析①(河川自然再生)

2-1 コンフリクトアセスメント

2-2 プロセスデザイン

2-3 ディスカッション

3-1 プロセスデザインの鍵

3-2 空間レイアウトのコツ

3-3 意見収集の方法

3-4 合意の創出

4-1 コンフリクトアセスメント

4-2 プロセスデザイン

4-3 ディスカッション

5-1 合意形成研修の成果の活用

5-2 合意形成の課題と可能性



研修プログラム実績②

第3回 知的財産・座学

平成27年9月28日～9月30日

講師:協和特許事務所

場所:気仙沼推進室

商標権～水産物にどんな商標があり得るか?

地理的表示法～商標権と異なる地理的表示、意匠権～水産業にも存在する意匠権不正競争防止法～水産業における留意点

語学・オンライン講義(25分×12回)

平成27年8月～9月

平成27年度水産海洋IOF育成プログラム研修(語学)

講師:株式会社アルク教育社(オンライン)

講義内容:ビジネス英語演習コース(中級)またはTOEIC600点

第4回 合意形成・実地研修(3日)

平成28年8月3～5日 場所:佐渡グリーンビレッジ

講師:豊田光世(新潟大学朱鷺・自然再生学研究センター 専任教員)、
松村昭南(福浦ふるさと会 会長)、大石惣一郎(岩首談議所 代表)

～ 合意形成の基本知識と佐渡島の地形と風土についてレクチャー

事例1 岩首集落の棚田保全の合意形成

事例2 加茂湖をめぐるガバナンスの合意形成

事例3 両津福浦集落の地域づくりと合意形成

討論(合意形成の課題と可能性を考える)

第5回 研究資金獲得・座学(2コマ)

平成28年8月4日 場所:佐渡グリーンビレッジ

講師:勝川俊雄(東京海洋大学産学・地域連携推進機構 専任教員)、

SANRIKU水産研究教育拠点形成事業等の成果を踏まえ、より多くの競争的資金を獲得するため、
昨今の競争的資金獲得に向けた課題や対策方法を検討し、研究支援者として以下のスキルを向上させた。



加茂湖漁業協同組合、地元企業、自治体(佐渡市、新潟県)を交えた意見交換
(新潟県佐渡市)

研修プログラム実績③

語学・オンライン講義(25分×12回)

平成28年8月～9月

講師:株式会社アルク教育社(オンライン)

講義内容:ビジネス英語演習コース(中級)またはTOEIC600点

研究支援人材の配置転換

平成28年7月～10月(2週間程度、各人1～2回)

コンソーシアム内の他大学に出向し、当該大学の業務に携わる

第2クール

第1回 合意形成・座学(3日)

平成29年10月11日(水)～10月13日(金)

場所:岩手大学(上田キャンパス、盛岡市)

講師:豊田 光世(新潟大学 研究推進機構 朱鷺・自然再生学研究センター・准教授)

知的財産・座学(2日)

第2回 知的財産・技術移転(2日)

日程:平成29年10月25日(水)～10月26日(木)

場所:東京海洋大学(品川キャンパス、東京都港区)

講師:勝沼 宏仁(勝沼国際特許事務所・代表、東京海洋大学産学・地域連携推進機構・客員教授)、

吉田 秀樹(国立研究開発法人科学技術振興機構 知的財産マネジメント推進部

特許許主任調査員(知財アドバイザー)

概要:一気通貫型の技術移転ロールモデル(知財活動) および JST大学等知財基盤強化支援

第3回 知的財産および競争的資金・座学

日程:平成29年12月16日(土)

場所:東京海洋大学(IOF育成プログラム気仙沼推進室、宮城県気仙沼市海の市)

講師等:和泉 充(IOF育成プログラム推進室長)、

森岡 一(東京海洋大学産学・地域連携推進機構・客員教授) 他

競争的資金獲得および生物多様性条約に基づく遺伝的資源へのアクセスに関する研修

平成29年度研修プログラム

1.合意形成研修 (Phase 1)
 日程:平成29年10月11日(水)～10月13日(金)
 時間:11日 14:00～13日 12:00(予定)
 場所:岩手大学(上田キャンパス、〒020-8501岩手県盛岡市上田4丁目1番1号)
 講師:豊田 光世(新潟大学 研究推進機構 朱鷺・自然再生学研究センター・准教授)

2.知的財産と技術移転研修 (Phase 1)
 日程:平成29年10月25日(水)～10月26日(木)
 時間:25日 10:30～26日 12:00(予定)
 場所:東京海洋大学(品川キャンパス、〒108-8477東京都港区品川4丁目5番7号)
 講師:勝沼 宏仁(勝沼国際特許事務所 代表、東京海洋大学産学・地域連携推進機構 客員教授)、
 吉田 秀樹(国立研究開発法人科学技術振興機構 知的財産マネジメント推進部 主任調査員)

3.競争的資金獲得および生物多様性条約に基づく遺伝的資源へのアクセスに関する研修
 日程:平成29年12月16日(土) 集合10:00～17:00
 場所:東京海洋大学(品川キャンパス、〒108-8477東京都港区品川4丁目5番7号)
 講師:和泉 充(東京海洋大学産学・地域連携推進機構 IOF育成プログラム推進室長)、
 森岡 一(東京海洋大学産学・地域連携推進機構 客員教授)

4.知的財産と技術移転研修 (Phase 2)
 日程:平成30年3月7日(水) 集合10:00～17:00
 場所:東京海洋大学(品川キャンパス、〒108-8477東京都港区品川4丁目5番7号)
 講師:勝沼 宏仁(勝沼国際特許事務所 代表、東京海洋大学産学・地域連携推進機構 客員教授)、
 対馬 正秋(東京海洋大学産学・地域連携推進機構 客員教授)

スキル評価を受けることを見返して研修に参加いただくことが望ましいですが、各研修を個別に受講いただくことも可能です。

IOF育成研修プログラムにおける人材育成
 水産海洋分野に特化した専門性(知的財産権に関する知識と技術移転等)を有する研究者や学生(博士号取得を含む)の向上を目指し、プロジェクトの研究成果を水産都市に普及・定着することで、他業種がかわる水産加工製品の創出から消費までの研究課題解決を先導できる人材を育成します。

受講対象者
 水産海洋分野において研究支援等の業務に携わっているIOP/産学連携コーディネーター等、ご所属先において本研修成果を活かせる方等
 平成29年度は10名程度受け入れ予定

受講費
無料
 ※交通費、宿泊費は各自いただきます
 ※受講者の内閣府からは、機関として水産海洋イノベーションコンソーシアムに加入する必要がある予定です(詳細は応募方法参照) 加入員は無料です

IOF資格認定制度
 コンソーシアム運営協議会によるスキル評価を受け、優秀な評価を得た受講者には、IOF資格証明書を発行します。
 ※スキル評価を受けるためには原則として当該年度にわたる研修を受ける必要があります。
 今回の募集に関しては、平成29年度の研修に続いて平成30年度に针对研修・実習を含む合意形成研修(Phase2)を実施する予定です。

応募方法
 各研修への受講申込みは、所属機関を通して行ってください。研修プログラムを受講するにあたり、機関として水産海洋イノベーションコンソーシアムに加入する必要があります。加入申込み書を水産海洋イノベーションコンソーシアム運営協議会へ提出してください。

【問い合わせ先 加入・受講申し込み先】
 水産海洋イノベーションコンソーシアム運営協議会事務局
 東京海洋大学 産学・地域連携推進機構内 〒108-8477東京都港区港南4丁目5番7号 (担当:倉持)
 電子メール: iofpgmoffice@m.kaiyodai.ac.jp 電話番号: 03-5463-0859 FAX: 03-5463-0894

研修プログラム実績④

第4回 知的財産・座学

日程：平成30年3月7日(水)

場所：東京海洋大学(IOF育成プログラム気仙沼推進室、宮城県気仙沼市海の市)

講師等：勝沼 宏仁(勝沼国際特許事務所・代表、東京海洋大学産学・地域連携推進機構・客員教授)他
知的財産と技術移転

語学・オンライン講義(25分×12回)

平成29年9月～11月

講師：株式会社アルク教育社(オンライン)

講義内容：ビジネス英語演習コース(中級)またはTOEIC600点

第5回 合意形成・実地研修(2日)

平成30年7月4日(水)13時～7月5日(木)12時

場所：公財)釜石・大槌地域産業育成センター(会議室)

地域連携と合意形成(釜石プラットフォームを例に)

講師：三塚 浩之(株)釜石プラットフォーム代表

語学・オンライン講義(25分×12回)

平成30年9月～11月

講師：株式会社アルク教育社(オンライン)

講義内容：レギュラープランビジネス英語(初級または中級)



文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」
平成30年度
水産海洋イノベーションオフィス育成研修プログラム：合意形成研修

日程：平成30年 7月 4日(水)13時～7月 5日(木)12時
会場：公財)釜石・大槌地域産業育成センター(会議室)

内容：地域連携と合意形成(釜石プラットフォームを例に)
講師：三塚 浩之(株)釜石プラットフォーム代表

スケジュール：

7月 4日 13:00 育成センター集合
13:15 講演：地域連携と合意形成
講師：三塚 浩之(株)釜石プラットフォーム代表
15:15 市内中心部に移動の後、キッチンカー見学
18:00 懇親会 かまじば『Beck』(キッチンカー卒業生)

7月 5日 9:00 総合討論
11:00 地産都消に関する意見交換
12:00 解散



問い合わせ・申し込み先
【水産海洋イノベーションコンソーシアム運営協議会事務局】
東京海洋大学 産学・地域連携推進機構(品川オフィス)内TEL：03-5463-0859 倉持

東京海洋大学:池田 吉用

H28.7.19～H28.7.29 岩手大学三陸水産研究センター

産地が抱える生産上の課題(環境・生態系変化、担い手不足等)について自治体、漁業者、漁業協同組合、企業へのヒアリング調査を実施し、地域の研究機関における研究開発と地域貢献に関する訪問調査を行った。これらの調査結果からニーズを抽出し、研究開発の提案を検討した。

H28.9.26～H28.10.7 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構

岩手大学における産学・地域連携の組織と活動について紹介を受け、各業務対応に関する意見交換と検討を行った。

東京海洋大学:伊東 裕子

H28.7.1～H28.7.15 北里大学海洋生命科学部

地域活性へ向けた3大学連携の強化や新たな課題発掘のための情報収集などプレアワード業務、広報支援業務を行った。

H28.10.17～H28.10.28 北里大学三陸臨海教育研究センター(予定)

大船渡地区における地域連携活動を通じて、SANRIKU水産研究教育拠点形成事業等の研究成果をふまえた普及と発展的展開をめざす研究支援活動を行う。

東京海洋大学:設楽 愛子

H28.9.8～H28.9.23 北里大学海洋生命科学部

諸外国との共同研究等における研究支援業務(安全保障貿易管理下での研究資源の提供、生物多様性条約に基づく研究資源受領等の対応)、また地域の研究機関等を含めた新たな産学官連携研究コンソーシアムの形成支援のため、研究者ならびに研究情報の収集を行う。

岩手大学:澤井 雅幸

H28.8.17～H28.8.31・H28.9.28～H28.10.7 東京海洋大学産学・地域連携推進機構 北里大学 海洋生命科学部

研究成果の知的財産化に関する研究者支援業務等を行うとともに、関係省庁等の競争的資金や各種補助事業等の情報収集などプレアワード業務を行った。また三陸沿岸地域での研究成果等をふまえながら地産都消・地産外消に向けた連携支援活動を行った。特に消費地における諸事情を把握し、今後の事業展開を検討する。

北里大学:清水 恵子

H28.8.29～H28.9.9 岩手大学三陸水産研究センター・水産海洋IOF育成プログラム推進室(気仙沼市)

大船渡地区における地域特性を踏まえ、釜石市等の事情等を加味した地域連携活動を行う。気仙沼推進室での連携活動も含め、地域企業のみではなく自治体・共同体等との多機関かつ多面的連携をめざした地域を総体として活性化させるプロジェクト推進等の支援活動を積極的に行った。

スキル標準の詳細について①

水産海洋イノベーションコンソーシアム研究支援人材スキル標準

平成30年1月23日 水産海洋イノベーションコンソーシアム運営協議会・運営委員会承認

各スキル基準を点数化し(主導型⇒3P、自立型⇒2P、協働担当(担当者)⇒1P)、「主導的」3項目のスキル標準を満たし、かつ、総合ポイントがスキル標準の総合ポイント(32P)より高ければIOFに認定

業務区分	機能強化	業務内容	スキル標準	水産海洋イノベーションコンソーシアム研究支援人材が必要とするスキル内容
研究戦略推進支援 プレ・アワード業務	①政策情報等の調査分析	政府の科学技術政策、審議会の答申・提言等や、ファンディング・エージェンシー等の事業について、その策定段階からインターネットや関係者へのヒアリング等を通じて情報を収集し、政策動向等について分析を行う。また、組織においてこの機能充実のため、施策情報等にかかるデータベースの整備等、情報分析機能の強化、充実を図る。	協働担当(担当者)	情報収集・調査分析、マニュアル化・文書化 所属組織・分野に関する英文の科学技術政策情報・FAレポート等を最低限の範囲で理解できること。
	②研究力の調査分析	研究者の研究分野、外部資金獲得状況や論文投稿状況等を把握し、マッピング等により大学・部局等の研究特性の組織的把握を行う。また、組織においてこの機能充実のため、研究者情報のデータベースの整備等、研究プロジェクトの策定基盤を強化・充実化する	協働担当(担当者)	研究者の研究活動の把握、研究者DBの整備(分野、論文、特許、外部資金) 研究力の国際動向について英語情報として最低限の把握ができること。
	③研究戦略策定	組織の研究教育資源を有効に活用することを目指し、組織改編、研究拠点形成、研究支援体制構築に関する立案・支援、関係部局との調整等を行う。研究者相互の認識の拡大と深化、意識醸成、プレゼンス確立のため、例えば新たな課題発見のためのワークショップの開催等を行う。	協働担当(担当者)	プロジェクトの候補案件リストを作成 研究力の国際動向について英語情報として最低限の把握ができること。
	④研究プロジェクト企画立案支援	外部資金獲得状況等から他大学との比較、採択結果の分析等を行う。また、研究者のマッチング、研究チームの構成員候補のリストアップ等の外部資金に応募する研究プロジェクトの企画案の策定のための支援、調整等を行う。	協働担当(担当者)	研究者の研究構想やコアコンピタンスやこれに適した研究制度を研究者に紹介、応募を提案 所属大学の位置づけ、外部資金、研究の適正な実施、学内ポリシー等を理解していること。
	⑤外部資金情報収集	国、ファンディング・エージェンシーや企業等が募集する補助金・委託事業等の国内外の外部資金及び関連情報について、その策定段階からインターネットや関係者へのヒアリング等を通じて収集、募集内容、対象や要件等を分析し、背景となる政策動向や外部資金獲得によるメリット・デメリット等を把握し、適切な研究分野・経験を持つ研究者に情報提供を行う。	自立的	執行部・研究者からの多様な質問に適切な回答や助言 英語を含めた情報源を理解し必要なら英文メールでやりとりができること。
	⑥研究プロジェクト企画のための内部折衝活動	外部資金受入、研究プロジェクトに必要な研究資源の確保や協力機関との契約等締結に関する事務局との調整、学内の研究者・研究科等への研究プロジェクトへの参画交渉・調整を行う。また、申請件数が限られている大型外部資金について、学内ヒアリング等を通じて公募条件の合致の確認、申請件数の調整を行う。	自立的	プロジェクトの位置づけ(政策・他大学動向の把握)・意義を他者に説明 プロジェクトに関する大学、研究コミュニティ、産業界・社会の動向をおおむね把握していること。
	⑦研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整含む合意形成	学外の研究者・研究機関への研究プロジェクトへの参画交渉や外部資金受入、事業計画・NDA等の契約等締結に関する協力機関との調整を行う。	主導的	複数の機関で構成するコンソーシアム事業など大型外部資金の応募を提案し、申請内容・件数の調整に貢献 プロジェクトに関する大学、研究コミュニティ、産業界・社会の動向を他者に説明できること。
	⑧申請資料作成支援	研究者の発想を整理し、必要なデータ等の収集、外部資金の申請書の研究計画の分筆・ドラフトや予算計画の作成を行う。また、申請書の添削・改善アドバイスや形式・内容が公募条件等に適合しているかどうかの確認を行う。申請書等を基にヒアリング審査等におけるプレゼンテーション資料等の作成や支援を行う。申請書やプレゼン資料作成指導セミナー等の開催	協働担当(担当者)	担当者として対応 プロジェクトに関する技術情報において英文情報を最低限の範囲で理解できること。

スキル標準の詳細について②

業務区分	機能強化	業務内容	スキル標準	
ポストアワード業務	⑨研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整	外部資金採択時に、ファンディング・エージェンシー等との研究計画・予算、間接経費の比率等の調整、詳細な研究・予算計画の作成を行う。	自立的	水産海洋イノベーションコンソーシアム研究支援人材が必要とするスキル内容 雇用する研究員、技術員等の選考に関与、予算管理方針を策定 主体的にPLを補佐、PLの信頼を獲得しプロジェクトに関する認識を共有できること。
	⑩プロジェクトの進捗管理 含む合意形成	研究プロジェクトの運営ミーティング、研究チームミーティング等の運営、各研究チーム等を含む研究プロジェクトの進捗状況の把握・調整を行う。また、研究プロジェクトに関する論文発表、学会発表、知的財産の取得、その他研究成果の把握・整理を行う。	主導的	複数の企業、他大学など多機関のコンソーシアムによる大規模プロジェクトの進捗管理 多角的な視点で運営業務上の諸課題を解決できること。
	⑪プロジェクトの予算管理	学内共同研究者、協力機関等への予算配分案の調整・作成を行うとともに、研究費の執行状況の把握及び研究計画や法令・補助条件等に適合しているかの確認を行う。また、内部監査、外部資金の額の確定検査等の検査への対応を事務と連携して行う。研究目的・内容に必要なスペックを満たす機器等のリストアップ及び調達の際の仕様書等の作成、メーカーや経理担当者との調整を行う。	自立的	プロジェクト実施計画(予算執行計画)のとりまとめ、PLに代わってFAIに対応、中間検査、補正予算に対応 特許出願、生物多様性、輸出管理、利益相反などにかかわる諸規定を理解していること。
	⑫プロジェクト評価対応関連業務	ファンディング・エージェンシー等による年度評価、中間評価、事後評価等に対して報告書、プレゼンテーション資料等の作成やその支援、ヒアリングへの出席等の対応を行う。また、研究プロジェクト自体で行う評価委員会の開催・運営を行う。	自立的	中間評価、事後評価に対応して概要やPPTの作成 評価のプロセス、審査基準、政策的・科学技術的位置づけを理解していること。
	⑬報告書作成支援業務	各種報告書に必要な研究成果等の整理、研究者・研究チームとの執筆内容の調整・整理・取りまとめを行い、ドラフトを作成する。また、報告書の添削・改善アドバイスや報告書が研究計画等へ適合しているかどうかの確認を行う。	協働担当(担当者)	報告内容の調整・整理と計画書との整合性の確認 プロジェクトに関する技術情報について、最低限の英語による理解ができること。

スキル標準の詳細について③

業務区分	機能強化	業務内容	スキル標準	水産海洋イノベーションコンソーシアム研究支援人材が必要とするスキル内容
関連専門業務	⑭連携支援業務（教育）	教育研究拠点形成や、連合大学院設置等、大学院教育を主とした連携支援を行う。国・大学の大学院教育方針を理解しつつ連携構想を研究面から整理するとともに、学内関係者および外部関係機関との連絡・調整を行い、教員・事務と共同で連携に関する具体的な手順を進める。	協働担当（担当者）	学内関係者および外部関係機関との連絡・調整、教員・事務と共同個別具体的な手順を進めること。
	⑮連携支援業務（国）	国際的な教育研究に関するコンソーシアム形成、海外機関との連携を進めるにあたり、海外の教育研究動向・状況を理解し、説明資料作成、連絡、調整、契約、調印式等の現地でのイベント開催等の一連の業務を、教員、事務職員と連携して行う。また、国際共同研究支援の一環として、国外から研究者を招聘するための連絡、調整等を行う。	自立的	連絡、調整、契約、調印式等の現地でのイベント開催等の業務をプロデュース迅速なイベントマネジメントを行うこと。
	⑯連携支援業務（企業）含む合意形成	企業との組織的連携、産学官連携コンソーシアム、地域振興を含めた地域産業界との連携の構築支援を行う。具体的には、企業と研究者の研究プロジェクトに対する考え・要望を聞き、方向性を整理し、プロジェクトの実現に向けた交渉・仲介を行う。また、産業界と連携し公的競争的資金による複数の当事者による大型・長期のプロジェクトの推進を支援する。	主導的	企業との組織的連携、産学官連携コンソーシアム、地域振興、地域産業との連携構想立案 立案力とその実施力を持っていること。
	⑰発明開示関連業務	必要に応じて学内の関連部署と連携・調整しつつ、知財の発明範囲の確定、特許明細書の検討・作成、企業と共同出願する際の調整・交渉を行う。また産学官連携コンソーシアム、特区構想等の特別な取り組みについては、事業趣旨や申請内容を踏まえ、当該事業に最適な知財の取り扱いを提案できる。	自立的	特許明細書の検討・作成、企業と共同出願する際の調整・交渉 事業趣旨や申請内容を踏まえ、当該事業に最適な知財の取り扱いを提案できること。
	⑱研究機関としての発信力強化推進	研究活動に関する研究機関としての提言、宣言等の立案を支援する。また、学外の研究者や学外ステークホルダー等に対する研究機関としての発信力・ブランド力を強化するため、研究内容、研究環境等に関する広報活動に参画する。	自立的	研究内容、研究環境等に関する広報活動への参画・企画 適切な広報媒体について、広報戦略を踏まえた内容を提案できること。
	⑲広報関連業務	Webサイトの掲載内容の立案、デザイン、管理や更新を行う。その他、ニュースレター、パンフレット等の海外向けも含めた広報資料の企画・作成を行う。また、プレス発表等の手配や取材の対応を行う。研究会や一般向けセミナー等におけるプレゼンテーション資料の作成や研究内容・成果の発表・報告を行うと併し、セミナー等の成果の取りまとめ、来場者とのネットワークの形成を行う。	協働担当（担当者）	Webサイトの掲載内容の立案、デザイン、管理や更新を行う。その他、ニュースレター、パンフレット等の海外向けも含めた広報資料の企画・作成を行う。また、プレス発表等の手配や取材の対応を行う。研究会や一般向けセミナー等におけるプレゼンテーション資料の作成や研究内容・成果の発表・報告を行うと併し、セミナー等の成果の取りまとめ、来場者とのネットワークの形成を行う。
	⑳イベント開催関連業務	シンポジウム等の企画・立案、プログラム策定を行い、必要な講師等の選定・招聘、関連する手続等の事務部門・イベント会社との調整を行う。また、イベントの対象に合った適切な広報を行い、準備・開催当日の管理・運営を行う。	協働担当（担当者）	シンポジウム等の企画・立案、プログラム策定を行い、必要な講師等の選定・招聘、関連する手続等の事務部門・イベント会社との調整を行う。また、イベントの対象に合った適切な広報を行い、準備・開催当日の管理・運営を行う。
	㉑安全管理関連業務	必要に応じて学内の関連部署と連携・調整しつつ、薬品等の取扱、遺伝子組み換え動植物、病原性微生物、放射線等の実験に関する法令等への適合性確認や定期的な運用状況の確認を行う。併せて、保管・実験等に必要申請書類等の作成を行う。また、事故発生時の学内外の対応を行う。海外調査、フィールドワーク等における参加研究者の把握、実施計画の作成、生物多様性条約に関連する諸般手続き支援と管理、保険加入等の管理を行う。	自立的	必要に応じて学内の関連部署と連携・調整しつつ、薬品等の取扱、遺伝子組み換え動植物、病原性微生物、放射線等の実験に関する法令等への適合性確認や定期的な運用状況の確認を行う。併せて、保管・実験等に必要申請書類等の作成を行う。また、事故発生時の学内外の対応を行う。海外調査、フィールドワーク等における参加研究者の把握、実施計画の作成、生物多様性条約に関連する諸般手続き支援と管理、保険加入等の管理を行う。
	㉒倫理・コンプライアンス関連業務	必要に応じて学内の関連部署と連携・調整しつつ、利益相反や知的財産・研究成果の取り扱いに関する確認、実験等に併し収集する個人情報の管理等を行う。また、研究者等に対する各種倫理・コンプライアンス関連の助言・情報提供を行うとともに、倫理・コンプライアンス違反があった際の学内外の対応を行う。	自立的	必要に応じて学内の関連部署と連携・調整しつつ、利益相反や知的財産・研究成果の取り扱いに関する確認、実験等に併し収集する個人情報の管理等を行う。また、研究者等に対する各種倫理・コンプライアンス関連の助言・情報提供を行うとともに、倫理・コンプライアンス違反があった際の学内外の対応を行う。

水産海洋イノベーションコンソーシアムフォーラム開催実績①

東京海洋大学・岩手大学・北里大学 共催

第1回 水産海洋イノベーションコンソーシアムフォーラム 『水産海洋イノベーションオフィサ育成プログラム』

- 【開催日時】平成27年2月20日(金) 9:30~11:45
 【開催場所】東京海洋大学 品川キャンパス 楽水会館 (東京都港区港南4-5-7)
 【目的】
 「水産海洋イノベーションコンソーシアム」の事業紹介と海外における水産加工事情にかかわるキーノートレクチャー
 【プログラム】
- 09:30~09:40 _ 開会挨拶
東京海洋大学 学長 岡本 信明
 - 09:40~09:50 _ 文部科学省挨拶
文部科学省 科学技術・学術政策局
人材政策課人材政策推進室長 和田 勝行
 - 09:50~10:00 _ 事業ガイダンス
(独)科学技術振興機構 担当プログラムオフィサ 山本 恵司
 - 10:00~10:15 _ 水産海洋イノベーションコンソーシアム事業紹介
事業統括責任者 東京海洋大学 理事 小川 廣男
 - 10:15~10:40 _ IOF候補URAからの自己紹介(5名)
 - 10:40~11:05 _ 招待基調講演1「海藻養殖と多栄養段階複合養殖」
Dr. Marc DANJON (CEVA, France)
 - 11:05~11:30 _ 招待基調講演2「シーフードにおける食品安全と新技術」
Dr. Bernard PICOCHÉ (ACTALIA, France)
 - 11:30~11:40 _ 質疑・討論
 - 11:40~11:45 _ 閉会挨拶
北里大学 副学長 緒方 武比古
- 17:30~ 情報交換会 (会費2,000円 事前申し込みに御協力ください)

+



岩手大学
IWATE UNIVERSITY



北里大学
KITASATO UNIVERSITY

文部科学省 平成27年度科学技術人材育成補助事業
 「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」
 研究支援人材育成プログラム

東京海洋大学・岩手大学・北里大学 共催



平成28年
2月19日(金)

10:00-12:00

東京海洋大学 品川キャンパス
楽水会館(東京都港区港南4-5-7)

第2回
水産海洋イノベーション
コンソーシアムフォーラム
「水産海洋イノベーション
オフィサ育成プログラム」



【プログラム】



- 9:30 受付開始
- 10:00~10:05 開会挨拶
東京海洋大学 学長 竹内 俊郎
- 10:05~10:15 文部科学省挨拶
文部科学省学術政策局人材政策課人材政策推進室
- 10:15~10:25 水産海洋イノベーションコンソーシアム事業 進捗状況
東京海洋大学 副学長 和泉 充
- 10:25~11:25 IOF候補からの活動報告(5名)
・東京海洋大学 URA 池田 吉用
・東京海洋大学 URA 伊東 裕子
・岩手大学 URA 澤井 雅幸
・北里大学 URA 清水 恵子
・東京海洋大学 URA 設楽 愛子
- 11:25~11:45 講演「Industry/Academia Partnering in EU」
Ms. Clare Caralp (Project Manager, AQUIMER, France)
- 11:45~11:55 講評
(独)科学技術振興機構 担当プログラムオフィサ 山本 恵司
- 11:55~12:00 閉会挨拶
岩手大学 岩手大学 三陸水産研究センター長 田中 教幸
- 17:00~ 情報交換会(会費3,000円 要事前参加申し込み)



水産海洋イノベーションコンソーシアムフォーラム開催実績②

文部科学省 平成26年度科学技術人材育成補助事業
「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業：研究支援人材育成プログラム」



第3回水産海洋イノベーションコンソーシアムフォーラム 「水産海洋イノベーションコンソーシアムの展開」

日程

平成29年
2月17日(金)
13:00~17:10

会場

東京海洋大学
品川キャンパス 楽水会館
(東京都港区港南4-5-7)

参加費

無料

申し込み

<http://olcr.kaiyodai.ac.jp/>
よりお申し込みください。
下記電子メール又はFAXからでも
受け付けています。

プログラム

- 12:30 受付開始
- 13:00 開会挨拶
竹内 俊郎 (東京海洋大学 学長)
- 13:10 事業推進に向けた挨拶
文部科学省 科学技術・学術政策局人材政策課
唐沢 裕之 (人材政策推進室長)
- 13:20 基調講演：水産海洋イノベーションコンソーシアムへの期待
永島 宏 (富城県水産技術総合センター 副所長)
- 13:40 水産海洋イノベーションコンソーシアムの推進
和泉 充 (東京海洋大学 副学長)
- 14:00 イノベーションオフィサー育成プログラム研修課程について
勝川 俊雄 (東京海洋大学 産学・地域連携推進機構 准教授)
- 14:20 地域連携と研究支援：北里大学三陸臨海教育研究センターから
清水 恵子 (北里大学 URA)
- 休憩
- 水産・海洋系産業イノベーション創造プラットフォームポスター展
- 15:10 体制整備：水産海洋系産業創造とリサーチアドミニストレーション
池田 吉用 (東京海洋大学 URA)
- 15:30 研究支援：産学連携における知財戦略
伊東 裕子 (東京海洋大学 URA)
- 15:50 研究支援：国際共同研究におけるリサーチアドミニストレーション
設楽 愛子 (東京海洋大学 URA)
- 16:10 地域連携と研究支援：岩手大学の取り組みとURA活動
澤井 雅幸 (三洋テクノマリン株式会社)
- 16:40 総合討論：
水産海洋イノベーションコンソーシアムの展開
パネリスト：菅野 信弘 (北里大学 海洋生命科学部長)
田中 教幸 (岩手大学 三陸水産研究センター長)
和泉 充 (東京海洋大学 副学長)
山本 恵司 (科学技術振興機構プログラム主管) 他
- 17:00 閉会挨拶
岡野 安洋 (北里大学 副学長)

同時
開催

水産・海洋系産業イノベーション創造
プラットフォームポスター展

日程 平成29年2月17日(金) 10:00~17:30
会場 楽水会館5階

【問い合わせ先】

(国) 東京海洋大学 水産海洋イノベーションオフィサー育成プログラム推進室
産学・地域連携推進機構 (担当：倉持、池田)

電子メール：icfm@m.kaiyodai.ac.jp 電話番号：03-5463-0859 FAX：03-5463-0894

ICFM-IODP 2018 Innovation Consortium of Fishery and Marine Science and Technology
Innovation Officer Development Program

文部科学省 平成26年度科学技術人材育成補助事業
「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業：研究支援人材育成プログラム」



第4回水産海洋イノベーションコンソーシアムフォーラム 「産学官連携機能強化に向けたグローバルな研究支援人材像」

日程

平成30年
1月23日(火)
10:00~17:00

会場

東京海洋大学
品川キャンパス 楽水会館
(東京都港区港南4-5-7)

参加費

無料

申し込み

<http://olcr.kaiyodai.ac.jp/>
よりお申し込みください。
下記電子メール又はFAXから
でも受け付けています。



【問い合わせ先】

(国) 東京海洋大学 水産海洋イノベーションオフィサー育成プログラム推進室
産学・地域連携推進機構 (担当：倉持、池田)

電子メール：icfm@m.kaiyodai.ac.jp 電話番号：03-5463-0859 FAX：03-5463-0894

水産海洋イノベーションコンソーシアムフォーラム開催実績③

文部科学省 平成26年度科学技術人材育成補助事業
「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業：研究支援人材育成プログラム」



第5回水産海洋イノベーションコンソーシアムフォーラム 「これからの産学・地域連携と人材育成」

日程	プログラム	10:00- 開場
平成31年 1月25日(金) 10:00~16:40	10:15-10:20	開会挨拶 東京海洋大学 学長 竹内 俊郎
	10:20-10:35	文部科学省 科学技術・学術政策局人材政策課
会場 東京海洋大学 品川キャンパス 楽水会館 (東京都港区港南4-5-7)	10:40-11:05	基調講演1 三陸沿岸地域産業の復興と産学・地域連携 田中 教幸 (岩手大学三陸水産研究センター長)
	11:05-11:30	基調講演2 南アフリカ開発共同体とブルーエコノミー Prof. Osmund D. Mwandemele, University of Namibia
	11:30-11:55	基調講演3 自動運航船に関する世界の動向と自動避航 今津 隼馬 (東京海洋大学名誉教授)
	12:00-13:30	+++++昼食・休憩・ポスターセッション+++++
	13:30-14:00	水産海洋イノベーションコンソーシアムから
	14:00-14:40	特別講演 これからの日本の社会 宮内 義彦 オリックス株式会社 シニアチーフマン
	14:40-15:00	北里大学三陸キャンパスにおける拠点活動 清水 恵子、難波 信由 (北里大)
	15:00-15:20	岩手大学の取組とU R A活動 山下 晋、今井 潤 (岩手大)
	15:20-15:40	産学官連携における知的財産マネジメントとABS対応 伊東 裕子、設楽 愛子、森岡 一 (海洋大)
	15:40-16:00	国産冷凍サバを高付加価値化するコールドチェーンの 実用化技術の開発 池田 吉用、岡崎 恵美子 (海洋大)
	16:00-16:20	魚類育種の未来 設楽 愛子、吉崎 悟朗 (海洋大)
	16:20-16:30	講評 科学技術振興機構 山本 恵司 AQUIMERメッセージ (予定)
16:30-16:40	閉会挨拶 北里大学 副学長 本間 浩 岩手大学 副学長 八代 仁	

参加費

無料

申し込み

下記電子メール又はFAXから
受け付けています
※当日参加も可能です



【問合わせ先】

(国) 東京海洋大学 水産海洋イノベーションオフィサー育成プログラム推進室
産学・地域連携推進機構 (担当：倉持、池田)

電子メール：icfm@m.kaiyodai.ac.jp 電話番号：03-5463-0859 FAX：03-5463-0894

